

令和3年度後期始業式「式辞」

校長 下雅意 一之

「みなさんは飛行機に乗ったことはありますか？」

飛行機がゆっくりと滑走路のスタート地点に向かいます。しばらく静止したあとジェットエンジンのゴォーッという爆音と同時に、シートに強いGがかかり一気に滑走路を駆け抜けていきます。次の瞬間！地面を離れた時のフワッという感覚と、角度を変え安定飛行の高度に達するまで、上へ上へと大きく旋回していくときの高揚感がたまりません。

乗り物好きの私にとって、飛行機は今でも「夢」のある乗り物の一つです。

さて、みなさんは飛行機の滑走路の長さがどれくらいか知っていますか？

ご存じのように滑走路は飛行機が飛び立つための絶対条件です。そして、機体の大きさに応じて適切な助走距離が必要になります。ボーイング747やエアバスA380クラスの超大型旅客機では、3,000～4,000mが標準だそうです。（ちなみに関西国際空港は、A滑走路が3,500m、B滑走路が4,000mです。さすがに国際空港の基準をクリアしています。）また、標高が高い場所の空港では空気密度が低く、エンジンの推力・機体の揚力は減少します。厳しい環境下で離陸するにはさらに長い距離が必要になるそうです。（世界一長い滑走路は標高4,334mにある中国のチャムド・バンダ空港の5,500mだそうです。）

滑走路は、一度に巡航距離1万kmをも超えるような長距離便のフライトをしっかりと支えています。目的地をめざすためには、飛行機の性能やポテンシャルにふさわしい滑走路が用意されなければならないのです。つまり、科学技術満載の大きな旅客機も、アスファルトで舗装されたまっすぐな道がなければ、飛ぶことはできないのです。

みなさんは、今、本校の学校生活を通して学び合う重要な成長過程にあります。

みなさんに尋ねます。その過程において、将来への夢や目標を持ち、自己実現をめざし主体的に何かに取り組んでいますか？また、学校生活において学ぶ姿勢を忘れずに、身につけた力が発揮できるように努力していることはありますか？職業実習などでは成果をあげることができていますか？心にまっすぐにめざしている道はありますか？

本校の学校生活（寄宿舎生活）で過ごす時間は、社会に大きく飛び立つための準備期間で大切なものです。今、みなさんは、まさに飛行機の「滑走路」にあたる場所にいるということをご自覚してください。自分自身の能力を最大限に引き出し、目標に向かって実現するためには、どれぐらいの長さの「滑走路」が必要でしょうか。今、自分にとって何をしなければならぬかを考え、できることから実行に移してみてください。みなさん一人一人に、解決しないといけないことや乗り越えなければならないことなど、それぞれに課題がきつと見えてくるはずですよ。

高い目標であればあるほど、クリアするためには「滑走路」の長さが必要になります。しっかり準備を進めましょう。「滑走路」はすべて直線です。曲がり道などありません。ひとたび道から逸れてしまうと飛び立つことができません。まっすぐ進むように自分自身のコントロールが必要です。「一心不乱」に、自分を信じ、甘えを捨てて、テイクオフのポイントをめざして、一気に加速し、「乱気流」を制してほしいです。

どうかみなさんが近い将来、本校を飛び立つその日が来たとき、前方に広がる視界が良好であることを願っています。学校生活は長い人生設計の「滑走路」ですよ！

以上、式辞とします。